



## 新生児の痛みを和らげるケア

新生児集中治療室(以下 NICU とする)に入院となった新生児は、検査や治療のため採血や点滴などの痛みを伴う処置を数回にわたり経験することになります。新生児が経験する痛みを伴う処置として、主に点滴や採血に伴う穿刺・吸引・胃チューブの挿入、テープの除去などがあげられます。新生児は、痛み刺激に対し対処できる力が十分に備わっておらず、成人と比べ、痛みを強く長く感じると言われています。新生児は痛みを感じても言葉で表現することはできないので、痛みを感じたときの反応をストレスサインとして表現して伝えます。このような新生児の痛みに対する反応を注意深く観察し、できるだけ早く痛みを緩和できるようサポートすることは、新生児看護の大切なケアのひとつです。

新生児への痛みに対するケアは、薬剤を使用する方法と薬剤を使用しないで痛みを和らげる方法があります。

ここでは、日常的に行っている薬剤を使用しないで痛みを和らげる方法をご紹介します。

### 痛いときの反応



泣く  
顔をしかめる  
心拍数の変化  
呼吸回数の変化  
SPO2 の低下  
手足の伸展  
指を開く

### <薬剤を使用せず痛みを和らげる方法とは？>

- ・包み込み(タオルやブランケットなどで新生児を包む)
- ・ホールドイング(児を胎児のような姿勢にして両手で頭とおしりを包み込む)
- ・環境の調整(照明が明るすぎない、児に不快な音を出さない)
- ・おしゃぶりの使用(Non-nutritive-sucking: 栄養に関係ない吸啜)
- ・搾母乳の投与
- ・直接母乳授乳
- ・カンガルーケア
- ・シヨ糖を舌の上にたらす



これらのケアは  
ご家族も  
一緒にできます。

これらは痛みを伴う処置の前から行い、新生児の状態が安定するのを待ってから、痛みの処置を行うにしています。詳しく知りたい方はこちら↓↓



新生児を痛みから守るため標準的なケアを示した

「NICU に入院している新生児の痛みのケアガイドライン」が  
2015年2月に発表されました。

<http://jsnhd.or.jp/pdf/gl20150120nicu.pdf>

文責:新生児集中ケア認定看護師 栗原通子